


船舶事故調査報告書

令和5年2月8日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突
発生日時	令和3年8月22日 14時40分ごろ
発生場所	東京都江東区若洲東方沖 東京木材投下泊地防波堤西灯台から真方位089° 2.2海里 (M) 付近 (概位 北緯35° 37.1′ 東経139° 51.7′)
事故の概要	ヨット4706及びヨット4463は、ヨットレースのスタート練習の目的で、4706がスタートラインの後方で漂泊中、また、4463がスタートラインに向けて航行中、両船が衝突した。 4706は、乗員1人が負傷し、右舷船尾部外板に亀裂等を生じ、また、4463は、船首部外板に擦過傷を生じた。
事故調査の経過	令和3年9月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A ヨット 4706、総トン数なし（長さ4.70m） 34051（艇体番号）、大学ヨット部 不詳、FRP 機関なし、不詳 B ヨット 4463、総トン数なし（長さ4.69m） 33025（艇体番号）、大学ヨット部 不詳、FRP 機関なし、不詳 (写真1参照)

	 <p style="text-align: center;">写真1 ヨット470型（メーカーHPより）</p>
乗組員等に関する情報	<p>A 乗員A（スキッパー） 21歳 B 乗員B₁（スキッパー） 19歳 乗員B₂（クルー） 21歳</p>
死傷者等	<p>A 重傷 1人（乗員A） B なし</p>
損傷	<p>A 右舷船尾部外板に亀裂等 B 船首部外板に擦過傷</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南、風力 4、視界 良好 海象：波高 約0.4m、潮汐 上げ潮の中央期</p>
事故の経過	<p>A船は、乗員Aほか1人が乗り組み、A船の整備後の試走の目的で、令和3年8月22日09時00分ごろ、三枚洲と呼ばれる東京湾の荒川及び旧江戸川の河口にある浅水域の南方沖に向け、東京都江東区の若洲海浜公園ヨット訓練所（以下「若洲訓練所」という。）を出発した。</p> <p>A船は、三枚洲の南方沖に到着したのち、乗員Aが艇の舵取りとメインセールの操作を担うスキッパーとして船尾端に、もう1人がクルーとして乗員Aの前方にそれぞれ乗り、A船の所属する大学のヨット部の僚船3艇と共に、それぞれの艇で走り比べ、どれぐらいの速力が出るか試走を繰り返した。</p> <p>A船は、12時00分ごろ試走を終え、昼食を兼ねて休憩をとったのち、三枚洲に到着したB船及びB船の所属する大学のヨット部の僚</p>

船1艇（以下「僚船B」という。）と共に、スタート及び旋回の練習をすることとし、スタートラインを示す浮標2個及び旋回用の浮標1個を設置して練習を始めた。

A船は、しばらく練習を繰り返したのち、旋回用の浮標が流出したので、スタートの練習のみを行うこととし、僚船Bが艇の不調により帰航したので、A船、A船の僚船3艇及びB船の計5艇で練習を始めた。

A船らが行うヨットレースでは、スタート時刻より前にスタートラインを超えてしまうとスタート失敗となるので、スタート時刻より前に艇がスタートラインを越えてしまったときには、旋回してスタートラインの後方に移動する必要がある。

A船は、次のスタートの準備として、スタートラインの後方に、左からA船の僚船3艇、A船、B船の順に並んで漂泊し、乗員Aがスタートの合図を待ちながら前方を見ていたところ、B船が右に旋回してA船に向かって接近していることに気付かず、14時40分ごろA船の右舷船尾部とB船の船首部とが衝突した。

B船は、乗員B₁及び乗員B₂が乗り組み、ヨットレースの練習の目的で、僚船Bと共に、12時00分ごろ、三枚洲の南方沖に向け、若洲訓練所を出発した。

B船は、乗員B₁がスキッパーとして船尾端に、乗員B₂が艇の縁に足をかけて大きく体を海へ乗り出すなどして艇のバランスをとるとともに、ジブセールの操作及び状況や進路の判断を行うクルーとして乗員B₁の前方に乗って航行し、三枚洲の南方沖に到着したのち、A船及びA船の僚船3艇と共に、練習を始めた。

乗員B₂は、ヨットの乗船経験が少なく、セイルにより前方が見づらい乗員B₁を指導しながら、スタートの練習を繰り返し、次のスタートの準備として、スタートラインの後方で漂泊しているA船の右舷方に並び、漂泊してスタート時間を待っていたところ、スタート時間の約30秒前、B船が圧流されスタートラインを越えてしまったので、右に旋回してスタートをやり直すことにした。

乗員B₂は、乗員B₁にスタートをやり直すことを伝え、乗員B₁に指示して右旋回を始めたのち、A船が船首方となったので、そのまま近づいてA船の手前で右に急旋回してA船と平行な姿勢にするつもりで、A船に向かっていたところ、急に強風を受けて速力が増して思ったよりA船に近づき、乗員B₁に右舵を指示するのが遅れ、右に旋回ができず、B船とA船とが衝突した。（図1 参照）

	<div data-bbox="544 174 1428 622" data-label="Diagram"> </div> <p data-bbox="790 645 1173 678">図1 衝突状況図（イメージ）</p> <p data-bbox="550 739 1428 869">乗員Aは、B船に伴走してきたレスキュー艇により若洲訓練所に戻り、救急車に引き渡されて病院に搬送され、右尺骨骨折と診断された。</p> <p data-bbox="550 884 1428 1014">A船及びB船は、A船に伴走していたレスキュー艇に乗っていた他の乗員がA船に乗り、それぞれ自力で航行して若洲訓練所に戻った。 （付図1 事故発生場所概略図 参照）</p>
<p data-bbox="199 1025 367 1059">その他の事項</p>	<p data-bbox="550 1030 1428 1160">A船及びB船は、共にヨット470型と称されるヨットであった。 乗員Aは、大学のヨット部に入学してからヨットを始め、約3年6か月の乗船経験があった。</p> <p data-bbox="550 1176 1428 1254">乗員B₁は、大学のヨット部に入学してしばらくしてからヨットを始め、約4か月の乗船経験があった。</p> <p data-bbox="550 1270 1428 1350">乗員B₂は、大学のヨット部に入学したのちにヨットを始め、約3年6か月の乗船経験があった。</p>
<p data-bbox="167 1361 231 1395">分析</p> <p data-bbox="199 1411 454 1585">乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p data-bbox="550 1411 805 1444">A あり、B あり</p> <p data-bbox="550 1460 805 1494">A なし、B なし</p> <p data-bbox="550 1509 805 1543">A なし、B なし</p> <p data-bbox="550 1559 1428 1778">A船は、三枚洲南方沖でヨットレースのスタートの練習中、次のスタートの準備として、スタートラインの後方に漂泊していたところ、乗員Aがスタートの合図を待ちながら前方を見ていたことから、B船が右に旋回してA船に向かって接近していることに気付かず、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p data-bbox="550 1794 1428 2065">B船は、三枚洲南方沖でヨットレースのスタートの練習中、右に旋回してスタートをやり直すことにした際、A船の手前で右に急旋回してA船と平行な姿勢にするつもりでA船に向かっていたところ、急に強風を受けて速力が増して思ったよりA船に近づき、乗員B₂が乗員B₁に右舵を指示するのが遅れ、右に旋回ができなかったことから、A船と衝突したものと考えられる。</p>

<p>原因</p>	<p>本事故は、A船及びB船が三枚洲南方沖でヨットレースのスタートの練習中、A船が、スタートラインの後方で漂泊していたところ、乗員Aがスタートの合図を待ちながら前方を見ていたため、B船が右に旋回してA船に向かって接近していることに気付かず、また、B船が、A船の手前で右に急旋回してA船と平行な姿勢にするつもりでA船に向かっていたところ、急に強風を受けて速力が増して思ったよりA船に近づき、乗員B₂が乗員B₁に右舵を指示するのが遅れ、右に旋回ができなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型帆船の乗員は、常に全周の見張りを行うこと。 ・ 小型帆船の乗員は、帆船が風や波などの自然条件によって意図せぬ航行をすることがあることを考慮し、他船に接近してから急旋回しようとせず、他船と余裕のある距離を保って旋回すること。

付図1 事故発生場所概略図

